

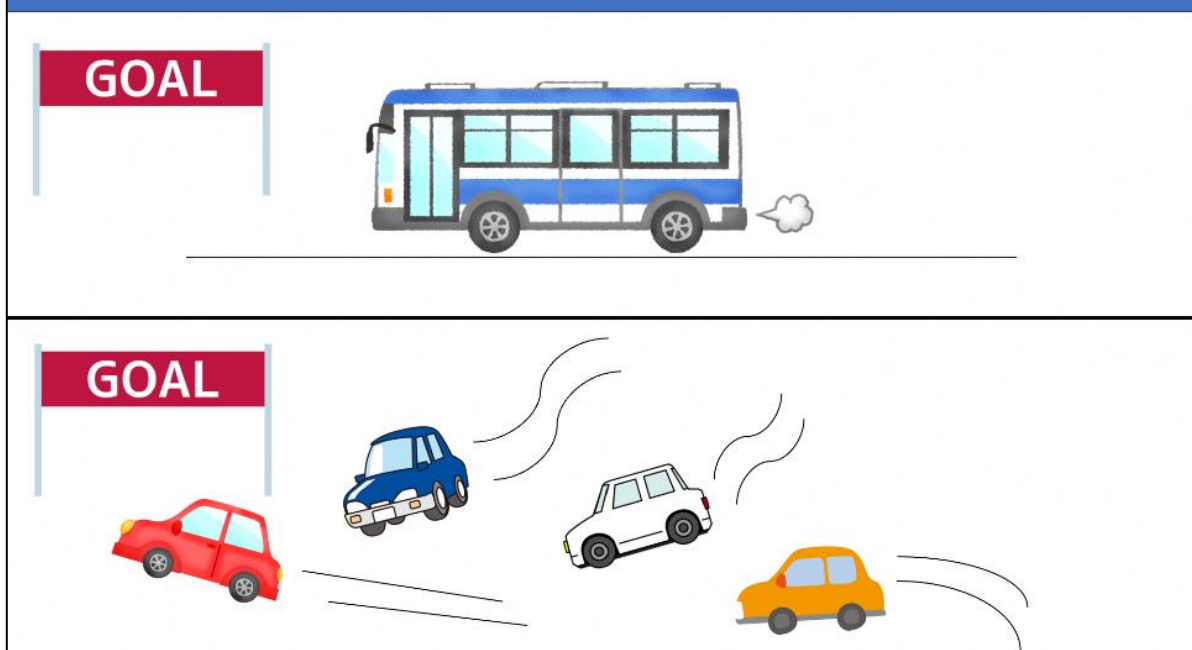


確かな学力の向上をめざして【12月】

■自己の授業を振り返り これからの授業イメージをつくる

下のイラストは、授業を乗り物に例えたイメージです。上のイラストは、これまで見られることの多かった授業、下のイラストは、これからの時代により一層求められている授業のイメージです。今号では、このイラストをもとに、これからより一層求められる授業について考えてみましょう。まずは、下の【問】を考えてみてください。

これまでの授業 / これからの授業 【イメージ図】



【問】

上の2つのイラストは、それぞれどのような授業をイメージしているか、説明しましょう。

運転手は、誰なんだろう？ 教師？ 子ども？



📍裏面にて、解説と情報提供を行っています。

※このイラストは、既に令和6年8月7日実施の中部版スクラム教育事業「学習者主体の学びの実現に向けた教育DX推進研修会」でも紹介しています。また、校内授業研究会等で紹介し、これからの授業イメージについて考えていただいた学校もあります。



【例】『教師』が主語、「教師主体」、「教師が教える」、「一斉授業」、「単線型授業」、…

【例】『子ども』が主語、「学習者主体」、「子どもが学び取る」、「それぞれの学び」、「個別最適・協働的な学び」、「複線型授業」、…

上のイラストは、教師がバスの運転手となり、教師が設定したルートで、クラス全員をゴールに到達させようとする授業をイメージしています。ペースも教師が設定しています。

下のイラストは、子ども一人一人が運転手となり、それぞれが選択したルートを、それぞれのペースでゴールを目指す学びのイメージです。また、ゴールは必ずしも一つではなく、学習者がゴールを設定することも考えられます。このような学習者主体の学びのイメージに近づくには、子ども達が徐々に教師の手を離れて自らの課題解決や活用・探究へと向かっていくような流れを、まずは教師が明確にイメージできるかどうかが重要です。

では、教師が運転手となるような「これまでの授業」は、もう必要ないということなの・・・？ みなさんはどう考えますか？



2つのイラストを比較することをおして、自己の授業を振り返り、これからの時代に求められている授業について考え、授業づくりに必要な学びを深めていきましょう。

これからの授業イメージをもつために！！

授業イメージを膨らませるためには、動画視聴が有効です。参考動画をいくつか紹介しますので、冬季休業期間等、ゆとりのある時にぜひご覧ください。自己研鑽しましょう！

①「個別最適で協働的な学びの最前線！子ども主体で学びを進める”複線型授業”とは」 (富山市立芝園小学校)【9分31秒】 	②「子どもの主体的な学びを実現する中学校でのクラウド活用」 (春日井市立高森台中学校)【14分59秒】 
③「子供たちが自ら学ぶことのできる授業」 リーディングDXスクール実践事例 (春日井市立藤山台小学校)【5分44秒】 	④生徒が学びに主体的に向かう授業づくり —学びの足跡を動画で表現— リーディングDXスクール実践事例 (広島市立牛田中学校)【4分52秒】 

※①②は、中部版スクラム教育事業「学習者主体の学びの実現に向けた教育DX研修会」においても活用した動画です。

御存じですか？！ “リーディングDXスクール事業”

児童生徒の情報活用能力の育成を図りつつ、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実や校務DX化を行い、全国に好事例を展開するための国の事業です。全国の小中高等学校、約200校の様々な取組等をWebサイトからご覧いただけます。情報満載ですよ。



鳥取県内のリーディングDX実践校

【令和6年度】鳥取市立桜ヶ丘中学校区（桜ヶ丘中、米里小、面影小、津ノ井小、若葉台小）

【令和5年度】米子市立東山中学校区（東山中・啓成小、車尾小）

★東山中学校区の取組（とっとり「学びの部屋」サイトにも掲載）

